

関西武夫原会

さて、今年度の支部活動は、同窓会出席者のさらなる拡大を目標に、北森信行事務局長の音頭のもと名簿の確認作業からスタートしました。ところが、名簿の住所から異動されている方も多く、「この電話番号は現在使われておりません」という応答の連続に苦戦。同窓会の案内ハガキを無事に発送するまでは、出るものも出ない、いやいや、食事も咽を通らないような心境でした。

そうして迎えた同窓会は、一月二〇日、日本庭園が美しい「太閤園」にて開催。この日のために特別編集されたテープ（A面、B面ともオール寮歌）がBGMで流れる中、谷正道会長の挨拶で華やかに始まりました。熊本大学元教授の中川努先生をはじめ、熊本学園大学関西志文会、熊本県立大学紫苑会、熊本県・熊本市両大阪事務所の皆様方にもご臨席賜り、会場には元・熊大生の顔が勢揃い。総会の部では、今年度の業務・会計報告が行われ、江口城生会計幹事の言葉を借りれば「総会屋との癒着もなくクリアだった」とのことでした。

引き続き、徳島から出席されたという昭和二九年卒の平野利光先輩の乾杯のご発声で、懇親会の部がスタート。テーブルを超えて熊大時

代の思い出話に花が咲き、「白川が氾濫したとき、オレは体にロープを結んで近所の人を助けたんだ」「ボクは優が三四個だったけど、君は？」「酔っ払って上通りを歩いてたら、商店街の人にバケツの水を浴びせられてね」などなど、数々の武勇伝（アレッ？たしか去年も聞いたような……）も披露されていました。「飲むどおろ（飲むぞ）」。昭和組の先輩方のハジけるパワーに、初参加者の多い平成組は圧倒されっぱなし。

さらに、陣太鼓や馬刺など、熊本ゆかりの固有名詞が飛び交うビンゴゲームでひとしきり盛り上がった後、いよいよクライマックスの寮歌斉唱へ。鉢巻き姿の上田和之常任幹事（正しくは頭にネクタイを巻いて）登場し、舞台で大太鼓をドーンと（正しくは大ジャンプで床を鳴らして）一発。輪になって楽しそうに歌い踊る先輩方を見て、なるほど「ブトウ派」とは「舞踏派」だったのね、と解釈いたしました。第一回卒から平成九年卒までが集った同窓会は、出席者数一〇〇名。大盛況でした。

付け加えますと、川添正實副会長から「平成組の会費軽減同様、年金暮らしの我々のために、来年から会費をまけてくれまいか」というご要望が会に寄せられ、このご時世だけに他人事ではありません。私に権限はございませんが、今後考慮すべき課題と存じます。

これからも、我ら熊本大学並びに関西武夫原会が永劫に発展することを誓いまして、支部活動の報告をお開きとさせていただきます。

THANK YOU (ありがとうございました)